

青谷かみじち遺跡

NEWS



Vol. **13**
2020 Winter

発行: とっとり弥生の王国推進課
青谷上寺地遺跡整備室
〒689-0952
鳥取市青谷町青谷 667
鳥取市青谷町総合支所 2F
電話 0857-85-5011

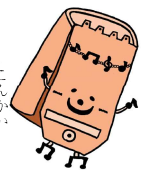


県外でも大人気です!!
「弥生の琴づくり」体験

11月に大阪府高槻市でおこなわれた古墳とアートの祭典「古墳フェスcomecome*はにコット(カムカムハニコット)vol.9」に出店し、「弥生の琴づくり」のクラフトワークをとおして、青谷上寺地遺跡を多くのおみなさんにピーアールしてきました。

古代の音色を復元

後編



ことたん

前回に引き続き、復元琴のお話です。今回は、弦の素材と音色の話、古代の琴と現代の琴との違いについてです。

古代琴の研究をされている方の復元実験では、弥生時代に入手できる弦の素材としては絹が非常に適していることが確かめられています。青谷上寺地遺跡からは琴と同時期の絹の布が出土していますので、絹の弦を用いることはできたでしょう。青谷上寺地遺跡整備室の復元琴には、絹の弦に近い音色が出る化学繊維の三味線弦を張っています。

また、琴の大きさと音の響き方にも違いがあります。大きい琴の方が大きな音がしやすし、同じ太さの弦を張るのであれば、大きい琴ほど弦が長くなるので音程は低くなります。

古代琴と現代の琴は、弦の張り方や弾き方が大きく異なります。現代の琴が弦を平行に張るのに対して、古代琴は弦を放射状に張りまします。このような弦の張り方は弦を同時にかけ鳴らしすのに適しており、古代の人々が琴の和音を楽しんだことが想像できます。



弥生時代のまつりの様子
(鳥取県立むきぼんだ史跡公園提供)

青谷上寺地遺跡出土人骨最新調査研究講演会

開催! 「弥生人骨の時を探る」

青谷上寺地遺跡から発見された、たくさんの弥生時代人骨。彼が生きた時代、眠りについた「時」を最新科学が解き明かします。

坂本稔 (国立歴史民俗博物館教授)

出演者 瀧上舞 (国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員)
濱田竜彦 (とっとり弥生の王国推進課)

- 日時 2月22日(土)午後2時〜午後4時まで
- 場所 とりぎん文化会館 第1会議室
- 要申し込み(先着150名)・入場無料

重要文化財指定記念展覧会

開催! 「青谷上寺地遺跡の世界」

重要文化財指定品約250点を展示! 併せて、展覧会の楽しみ方がわかる記念フォーラム(こに注目! 青谷上寺地遺跡の世界)も開催。

【展覧会(要入館料)】

- 会期 3月15日(日)〜3月28日(土)(月曜休館)
- 場所 鳥取県立博物館(鳥取市東町二丁目124)
- 【記念フォーラム(要申込、先着180名・要入館料)】
- 日時 3月21日(土) 午後1時〜午後3時
- 場所 鳥取県立博物館 講堂

木下尚子 (熊本大学教授)

出演者 茶谷 満 (鳥取県立博物館専門員兼学芸員)
北浦弘人 (とっとり弥生の王国推進課)

【右記講演会・フォーラムの申し込み先】

とっとり弥生の王国推進課 青谷上寺地遺跡整備室
電話 0857-85-5011 (平日のみ)
ファクシミリ 0857-85-5012
電子メール tottori-yayoi@pref.tottori.lg.jp